

図1 アユの産地別割合 (H26~28)

平成二十八年は著しい少雪で河川の水量が少なく、アユ漁への影響が心配されましたが、解禁後はそんな心配もよそに四年ぶりの好漁となりました。特に解禁当初から大型サイズが多く、漁期後半には竿を折られる程の大量もあつたと聞いています。ここでは、漁協から提供していただいたサンプル等をもとに、平成二十八年に釣られたアユの由来と大型サイズとなった要因について考えてみました。

【平成二十八年のアユの由来と成長】
アユは鱗数などの違いから、天然と人工種苗を区別できますが、人工種苗については産地まで区別できないこともあります。このような中で、平成二十六年、二十七年の放流時、試し釣り、漁期前半、漁期後半における産地別割合を図1に示しました。平成二十八年は、試し釣りで人工種苗が九割以上を占め、漁期後半でも天然魚は三割程度あつたことから、河川で人工種苗が順調に生育し、好漁につながつたと考えられます。

「近年にない大型！」

平成二十八年のアユについて

表1 種苗放流実績 (H26~28)

年	産地	平均体重 (g)	放流量 (kg)	放流尾数 (千尾)	放流日
H26	野積海産天然遡上	2.2	660	300	5/26~5/31
	村上産魚沼漁協中間育成	5.0	3,565	713	6/3~6/10
	岐阜県産	10.1	2,475	245	6/15~6/17
H27	野積海産天然遡上	2.3	430	165	5/23~5/25
	村上産魚沼漁協中間育成	7.6	5,660	736	5/29~6/9
	山形県産	12.0	550	46	6/1、6/2
	富山県産(富山漁協)	19.0	1,000	52	6/1~6/7
	富山県産(床川沿岸漁連)	8.8	600	70	6/1、6/2
H28	野積海産天然遡上	2.4	570	238	4/28~5/10
	村上産魚沼漁協中間育成	8.6	6,140	713	5/16~5/27
	山形産天竜川養魚場間育成	10.0	1,500	150	6/8~6/15

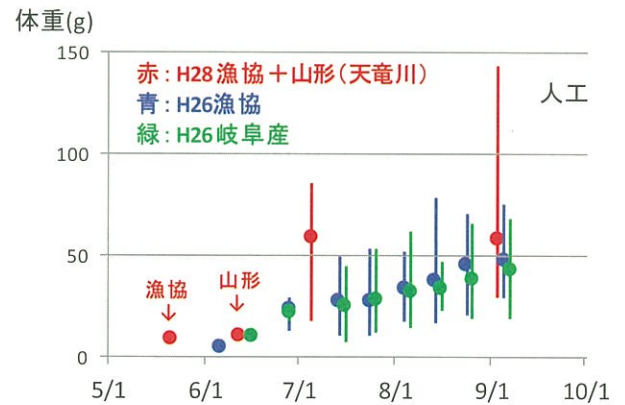
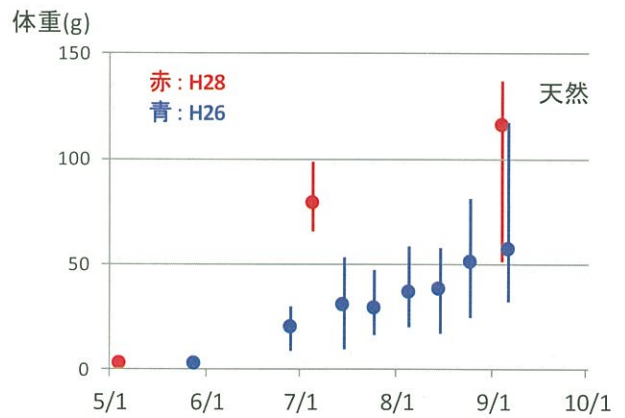


図2 釣獲された天然及び人工アユの成長

【大型魚が多かつた要因】
一部の地域では河川水が少ない影響があつたと聞きますが、平成二十八年はアユにとって概ね良好な河川環境であつたようです。一方、ここでは種苗の放流状況に目を向けて、型が良かつた要因について考えてみます。

天然と人工種苗について放流後の成長(友釣りサンプル)を平成二十六年と比較して図2に示しました。平成二十八年は天然、人工ともに成長が著しく良かつたことがわかります。試し釣りでは、天然魚の方が大型に見えますが、人工種苗の割合が著しく高かつたことから、天然魚は一部の成長の良いものが友釣りの対象になつたと考えられます。